

TNFD対応初期支援ツールの提供開始

株式会社三菱UFJ銀行(取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下 三菱UFJ 銀行)は、お客さまのネイチャーポジティブ^①に向けた取り組みや自然関連財務情報開示タスクフォース(以下「TNFD」)^②対応に向けた取り組みを支援・サポートする新たなサービス「TNFD対応初期支援ツール」(以下「本ツール」)の提供を開始いたします。本ツールは、お客さまのネイチャーポジティブ経営推進に関する取り組み状況を診断し、次なる動きに向けたフィードバックおよびソリューションをご案内するツールです。本ツールは三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の監修のもと開発いたしました。

1. 背景

世界でカーボンニュートラル実現に向けた取り組みが加速しており、各企業におけるGX^③促進が急務となっております。GXの推進は、GHG排出量の算定、気候変動が事業全体に与える物理的・移行のリスクと機会の洗い出し、カーボンニュートラルに向けた戦略の立案と実行、カーボンクレジットの活用等、長期に亘る一連の段階的な取り組みが求められます。三菱UFJ銀行はこれまでも、お客さまの段階ごとの取り組みを支援する様々なソリューションを提供してまいりました。

またネイチャーポジティブはカーボンニュートラルとも密接に関連しており、総合的な取り組みが必要とされております。直近の動向では、2022年12月の国連生物多様性条約COP15^④において「昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)」が採択され、2030年ミッション(「ネイチャーポジティブ」を達成すること)が定められたほか、企業における生物多様性に係るリスク・依存・影響の評価、および情報開示が促進されました。また2023年9月には自然関連財務情報開示タスクフォース(以下「TNFD」)が、組織が自然関連リスク・機会を報告するための枠組みである「TNFDフレームワーク」の最終版を発表したことから、企業のネイチャーポジティブに向けた取り組みは一層加速すると想定されます。

三菱UFJ銀行はお客さまをはじめとするすべてのステークホルダーの課題解決に向け、カーボンニュートラルおよびネイチャーポジティブの総合的な取り組みを支援すべく、本ツールの開発に至りました。

2. 「TNFD対応初期支援ツール」の概要

本ツールは、「自己診断シート」と、「フィードバックシート」の2つのツールで構成されています。

本ツールではお客さま自身で「自己診断シート」を利用し、お客さまにとってネイチャーポジティブ経営やTNFD開示対応で特に重要な項目の取り組み状況について自己診断することで、それら重要な項目が必要とされる背景を理解すること、「フィードバックシート」によって、その診断結果を踏まえた自社の取り組みの立ち位置を把握することを支援いたします。また、「フィードバックシート」においては、ネイチャーポジティブ経営の高度化に向けたアドバイス、および、高度化を進めるために必要となるソリューションをフィードバックいたします。

三菱UFJ銀行は、ネイチャーポジティブ経営を推進するお客さまに本サービスを展開することで、日本企業のネイチャーポジティブに向けた取り組みと企業価値向上に貢献してまいります。

3. 今後について

三菱 UFJ 銀行は、今後も気候変動分野をはじめとしたサステナビリティ領域における提携の取り組みを進めてまいります。なお、本ツールは東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 ^{しろた ひろあき} 城田 宏明)と三菱 UFJ 銀行の合同組織である「GX 推進アドバイザリータスクフォース」^⑤においても活用し、お客さまのサステナビリティ戦略の策定から実行・推進に向けた各ステージをお支えし、サステナブル経営の実現に貢献します。

- [1] 自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させることを意味する言葉。
- [2] 2021年6月に設立された、企業や金融機関を対象に自然損失の阻止とネイチャーポジティブの達成を目的とする国際的なイニシアチブ。
- [3] グリーン・トランスフォーメーション。経済成長と環境保護を両立させ、カーボンニュートラルの実現、脱炭素社会へ早期に移行するために必要な変革。
- [4] 2022年12月7日から19日にかけて開催された国連生物多様性条約第15回締約国会議。
- [5] 三菱UFJ銀行と東京海上日動火災保険によるTCFD開示支援サービスの提供開始
(https://www.bk.mufg.jp/news/news2022/pdf/news1111_1.pdf)

以 上